

Sustainable Report No.118

# ネイチャー・ポジティブ

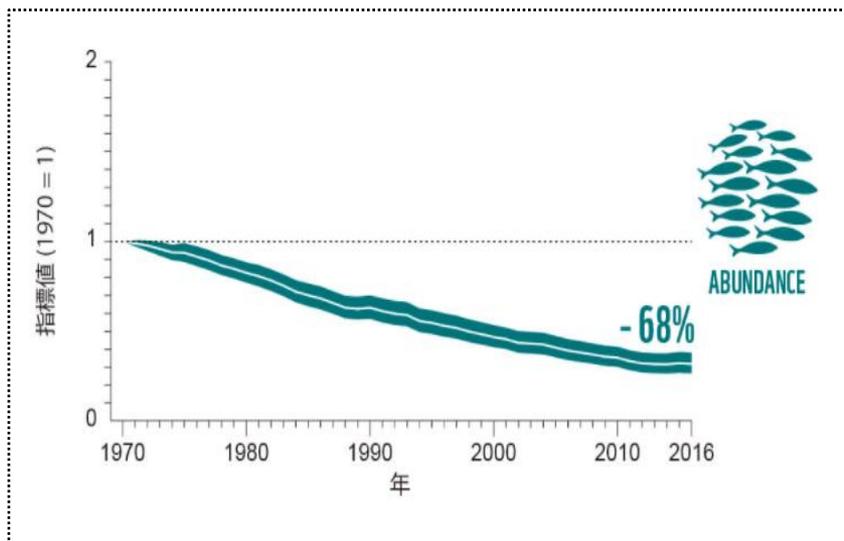


**Satisfactory**

## ■ 求められるアプローチ

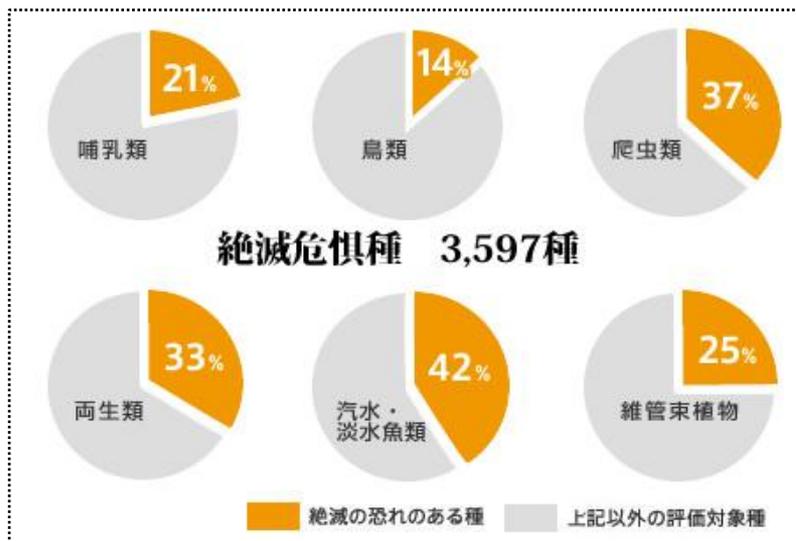
- 生物多様性の損失と気候変動は、長い間別々の問題として議論・対処されてきた
- 世界の生物多様性の豊かさは60%が消失
- 自然を喪失することで、世界のGDPの半分以上にあたる**44兆ドル(約4,700兆円)**の経済価値を損失
- 環境破壊が加速する昨今、サステナビリティという考えだけでは足りない

## ■ 人間活動に関連する生物多様性の減少



出典：WWF「過去50年で生物多様性は68%減少 地球の生命の未来を決める 2020年からの行動変革」

## ■ 絶滅危惧種の割合



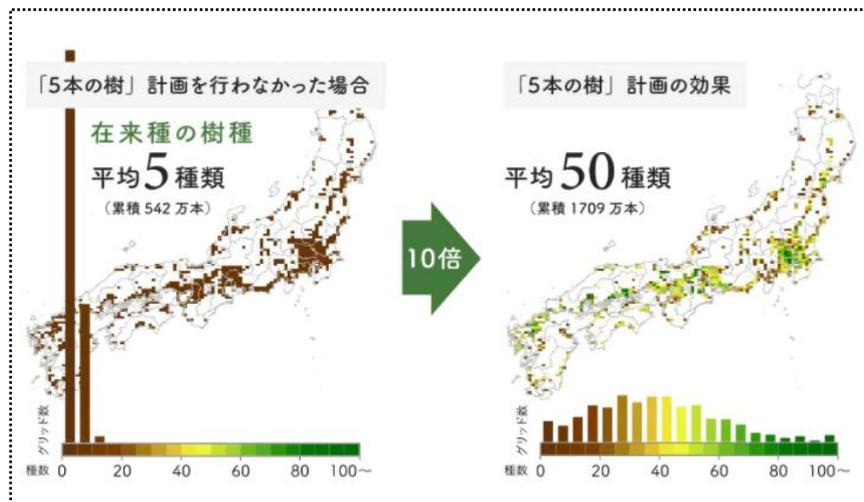
出典：環境省「生物多様性に迫る危機」

**生物多様性を回復軌道に乗せる「ネイチャー・ポジティブ」の取組が重要**

## ■ 「ネイチャー・ポジティブ」への資金流出

- 投資家が企業を選別する際、自然を優先する「ネイチャー・ポジティブ」を目指しているかを重視
- 企業に対して自然への依存度と影響を把握して開示を求める
- 農業や林業においてネットゼロ、ネイチャーポジティブな取り組みが進んでいけば、気候、自然、人にとって大きなコベネフィット（共通便益）がもたらされる
- 企業が「ネイチャー・ポジティブ」に貢献することで、生態系や自然資本を守ることになる

## ■ 積水ハウス-ネイチャー・ポジティブ方法論



出典：積水ハウス株式会社「ネイチャー・ポジティブ方法論」

## ■ 世界銀行- Nature Action 100

参加投資家数

545

運用資産総額

52兆ドル

参考：Climate Action 100+ イニシアチブ「Climate Action 100+」

## ビジネス界全体が戦略のリセットを迫られている

# 世界のトレンドは「サステナビリティ」から「リジェネレーション」 Satisfactory

## ■ポスト・サステナブルの世界

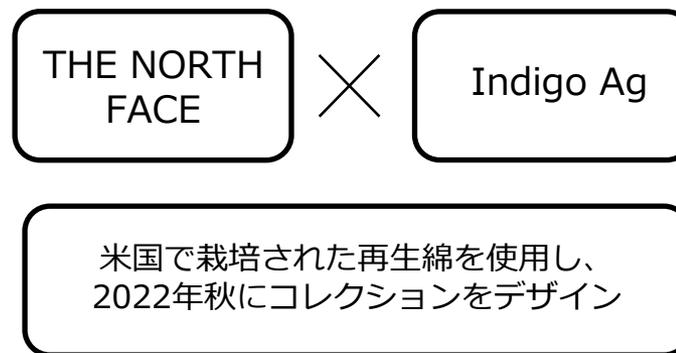
- 「ネットゼロ」という言葉は、これまでのマイナスをゼロに戻すというもので、どちらかと言うと受け身的／守りの発想
- リジェネレーティブという攻めの姿勢で環境への取り組みを進めていく場合、その**経済価値は10兆ドル（約1100兆円）に上る**
- **4億人近い雇用**が生まれるといわれている

## ■グッチ「ネイチャーポジティブ環境戦略」

- ・ **再生可能エネルギーへの切り替え**  
グリーンエネルギーへの切り替えにより、CO2換算5.9万トン削減
- ・ **製造効率**  
製造工程における持続可能性や効率の向上、発生する廃棄物の削減により、CO2換算3,000トンの排出を回避
- ・ **持続可能な原料調達**  
リサイクル素材やオーガニック繊維の使用をコレクションに増やすことで、CO2換算17.9万トン削減
- ・ **マングローブ林の再生・保全**  
約5,000ヘクタールのマングローブ林と28.5万ヘクタール以上の森林伐採を防ぐ

出典：Circular Economy Hub「グッチ、「ネイチャーポジティブ環境戦略」を発表」

## ■提携による取り組み



参照：WWD「The North Face Eyes Regenerative Cotton for Fall 2022. Who's Next?」

## 2030年までに年間10兆ドル規模のビジネスチャンスへ

## ■ 「カーボンニュートラル」 よりもっと先へ

- 海外企業においてはカーボンニュートラルよりもさらに一步先に行く概念として注目されており、実際の取り組みも進んでいる
- 金融市場はこれまで気候リスクを評価してきたが、自然に対しても同じアプローチが必要になった
- 気候変動と自然に包括的に対応しなければならないという認識が金融界でも高まっている
- 「TNFD」が発足し、運用資産総額940兆円の投資家が参加
- 自然への投資により、**2030年までに3億9500万人分の雇用が創出**できる試算

## ■ 衛星画像を使用したスマート農業



出典：JAXA「陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)とは」

## ■ 「TNFD」の発足



出典：日経ESG「「TNFD」発足、運用資産総額940兆円の投資家が参加」

カーボンニュートラルとネイチャーポジティブ、両輪で進める企業が評価される

## ■ 参照・引用資料

- WWF JAPAN, 「過去50年で生物多様性は68%減少 地球の生命の未来を決める2020年からの行動変革」, (<https://www.wwf.or.jp/activities/activity/4402.html>)
- 環境省, 「生物多様性に迫る危機」 ([https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/biodiv\\_crisis.html](https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/biodiv_crisis.html))
- 積水ハウス株式会社, 「ネイチャー・ポジティブ方法論」 ([https://www.sekisuihouse.co.jp/gohon\\_sp/method/](https://www.sekisuihouse.co.jp/gohon_sp/method/))
- Climate Action 100+ イニシアチブ, 「Climate Action 100+」, 2020年11月30日 (<https://www.climateaction100.org/wp-content/uploads/2021/03/CA100-2020-progress-report-JPN.pdf>)
- Circular Economy Hub, 「グッチ、「ネイチャーポジティブ環境戦略」を発表」, 2021年3月1日 (<https://cehub.jp/news/gucci-nature-positive-2021/>)
- WWD, 「The North Face Eyes Regenerative Cotton for Fall 2022. Who's Next?」, 2021年2月8日 (<https://wwd.com/sustainability/environment/the-north-face-1234724481/>)
- JAXA, 「陸域観測技術衛星2号「だいち2号」(ALOS-2)とは」 (<https://www.jaxa.jp/projects/sat/alos2/>)
- 日経ESG, 「「TNFD」発足、運用資産総額940兆円の投資家が参加」, 2021年7月12日 (<https://project.nikkeibp.co.jp/ESG/atcl/column/00005/070500097/>)

## ■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先： [info@sfinter.com](mailto:info@sfinter.com)



株式会社サティスファクトリーは、SDGsに係る人材教育プログラム『[KIZUNA ESD](#)』を企業に提供しております。全ての従業員によるサステナブルレポート作成やSDGs映画上映会の実施など、各種運用の導入と内製化を支援いたします。

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

### — サステナブルレポートとは? —

サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマをとりあげ、サティスファクトリー社員が調査報告書を作成・発信しています。



全従業員で  
毎週更新中